第２回　銚子市総合計画策定「市民ワークショップ」開催

平成２９年８月９日（水）　銚子市保健福祉センター２階会議室

今回のワークショップでは、まちづくりを進めていくための視点として、８つのテーマのグループを設定し、それぞれの現状や課題について意見交換を行いました。

ワークショップのテーマ

★ライフステージ（当事者の目線に立った議論）

グループ名	テーマ	主な要素	人数
グループＡ	生まれる・育つ	出産、子育て	８名
グループＢ	学ぶ	学ぶ場、学び方、街の将来	８名
グループＣ	働く	働き方、地域での生活	８名
グループＤ	老いる・死ぬ	老後、介護、最期の迎え方	８名

★コミュニティ（当事者を取り巻く環境と支え合いをめぐる議論）

グループ名	テーマ	主な要素	人数
グループＥ	家庭・近隣	独り暮らし、近所の支え合い、地縁団体	８名
グループＦ	学区・生活圏域	地域拠点、地域活動、専門家活動	８名
グループＧ	産業・自然	経済活動、環境活動	１０名
グループＨ	広域連携	近隣自治体、県・国との関係	８名

当日は、６６名の皆さまにご参加いただきました

ワークショップの様子

各グループのまとめ

次回（第３回）市民ワークショップは１０月１７日（火）の予定です

第２回　総合計画策定「市民ワークショップ」　平成 29 年８月９日（水）

各グループのワークショップで出された意見

グループＡ　生まれる・育つ【出産・子育て】

行政が 行うべきこと	○行政サービスの向上（市外に人が流れてしまう） ○行政が行っている活動内容を市民に知ってもらう努力が必要 ○子どもをしっかりと産むことができるような支援 ○ひとり親家庭などの子育て支援の整備 ○双葉小の学童の増員・幼稚園の利用 ○困ったときに子を預けられる施設 ○銚子には遊ぶ所が少ない（特に雨天時）児童館を整備する ○保育士を目指す人に学費の補助・助成 ○子どもの数は減っているが、低年齢（３歳未満）の入所は厳しい状況であり、保育士の確保に努めてほしい
市民・地域が できること	○市民同士のふれあいの場 ○妊婦や親子をおもいやる心 ○子供の見守り活動の強化 ○地元の祭りを復活させたい ○育休・産休制度など福利厚生を官民連携で高めていくことを励行する ○子どもたちへの宿題を教えるなどの学習ボランティアの輪を広げていきたい ○子育て世帯を孤立させないため、近所の高齢者に協力いただきコミュニティをつくる
協働で できること	○公園や児童館の充実 ○子どもお助け隊の結成（民生委員、町内会） ○地域で子供を育てる機運（子ども会） ○児童クラブで体験型学習のボランティアを行う（農業体験） ○先輩パパ・ママのコラムを掲載（市広報紙・ＨＰ） ○子育ての楽しさを知ってもらう（伝える）取り組みを展開する ○親が帰宅するまで子供が居られる場所（食事もできればよい） ○子どもを地域に預け、地域の方が食事を提供するような場（子ども食堂）があれば、子育て環境の向上につながるのでは ○子どもたちが銚子に帰ってきたいと思えるような機運を大人が情報発信する必要がある ○婚活事業を契機に結婚をした。結婚しなくては子供も産めない（人口が増えない）ので、積極的に婚活事業を推進してほしい ○銚子のイベントで（銚子電鉄など）婚活事業を合わせる
その他意見等	○新規学卒者と企業のマッチング ○企業による都内大学への説明会の開催

グループB　学ぶ【学ぶ場・学び方・街の将来】

行政が 行うべきこと	○各団体とのコーディネーター ○英語教員や海外への留学経験者、学生等英語にネイティブな人が多数いる、そういう人たちを集める ○中学校の統合に伴い、廃校になる施設の有効利用を考える（地域への開放や社会教育活動での活用 ○子どもの人数が減っていて、各学校での行事も盛り上がらない状況であるため小・中学校の再編を進める ○各学校単位での部活動が少子化により成り立たなくなっている（チームが組めない）学校の枠を超えて、体操・バスケットボールのような、クラブチームの推進、体協等と連携して教室等を開設しスポーツの強化策を行う
市民・地域ができること	○スポーツ・ジオパーク・観光を一つにつなげていく ○ジオパークを学び、広く人を呼び込んでいく ○てうし（銚子）の歴史や美術品で人を呼ぶ ○てうし（銚子）らしさを学び、新しい分野でのスポーツでプロ選手（世界レベルの団体）を輩出する（ヨガ・フラダンスなど） ○てうし（銚子）ブランドを学びいろいろな目線から新商品を開発し販売する ○英語教育が小学校３年生からになることから、魅力（特色）のある英語教育を行い、地域の留学経験者、学生等英語にネイティブな人たちとともに発信し、銚子の学校で英語教育を受けさせたいと親に思ってもらえるようにする（親の心を掴む） ○楽しく英語を学んだ子どもたちが英語での観光案内など、銚子の魅力を伝え、外国語ガイド等で就業先を広げていく
協働で できること	○学校での英語プログラムを学校・教育委員会・外国人の方々や留学経験者、学生等協働で作成し、外国文化に触れるイベントや先生方の補助を行っていく ○いろいろなサークルを作って、学校行事・町内行事等地域と結びつく活動を行っていく （現在のサークル活動等が個々のサークルごとになってしまっていて、横の繋がり等がないため、地域等へ繋ぐことが必要である）

グループC　働く【働き方・地域での生活】

行政が 行うべきこと	○新たな雇用の創造 ○空き店舗の利活用 ○事業者への相談窓口を設置する ○他市町村より大胆な政策を行う ○雇用の需要と供給のアンマッチについて、どのような業種で人手が不足しているかインターネット等で発信する ○若者が、銚子で働くには自動車が必要なため、自動車購入時の補助をする ○高齢者の免許返納を促進するための公共交通機関の整備

市民・地域ができること	○ＵＩＪターン希望者の（生活面での）サポート ○都内で企業の就職説明会を行う ○市や商工会議所などへの情報提供 ○地域の産業やお店を盛り立てるように利用してほしい ○在宅就業・子連れ出勤が可能な職場づくり
協働でできること	○地方で働く喜びの発信 ○就業体験（ミスマッチを減らす） ○事業マッチングの手助け ○お試し農業の支援をし、農業のつらいイメージをなくす。生産する喜び、働いただけお金になる喜びを伝える ○雇用先を確保する（辛い、大変と思われている仕事の魅力的な所を伝える） ○事業を次世代に引き継ぐことが難しくなっており、事業所が閉店していく、子や親族だけでなく他者（新規創業希望者）に継承できるよう、廃止や継続等について相談できるよう事業所用の窓口を設置する ○個人事業主の小売店は大型店ができると客数が激減して経営が成り立たなくなってやめていき、町の商店街がなくなっていくので地域で盛り立てるよう行政からも応援してほしい

グループＤ　老いる・死ぬ【老後、介護、最期の迎え方】

行政が行うべきこと	○幼稚園、小学生の頃からの健康教育の実施（大人になってからでは遅い） ○若い世代が健診や検診を受けやすい体制づくり ○年齢関係なく集まれる場所の提供 ○減塩メニューの発表会 ○減塩の大切さをＰＲ（広告から現状を周知） ○医師の就業環境の改善 ○医師のスキルアップの機会を支援（先進的な教育を受けられるよう） ○医療等の整備充実（予算を惜しまない） ○周知、啓発、広告で現状を知ってもらう（市民に分かり易い言葉で）
市民・地域ができること	○若い世代が積極的に健診を受ける ○健診参加の誘い合い（早期発見、病気予防） ○地域での減塩活動（声かけ） ○市内全体での減塩運動（食生活見直し） ○お互いの見守り ○減塩メニューを１週間食べ続ける（塩ラマダン） ○自分でできることを増やそう（男の人も料理をしよう） ○ウォーキングやカラオケイベントで健康寿命の延伸
協働でできること	○町内の代表減塩メニューコンテストを開催 ○料理教室などで健康食を推進 ○ウォーキングなど年齢に関係なく集まれる場所づくり ○現状の把握を心掛ける（家族・近隣の形にも様々ある）

	○地域で交流の場づくり（心のよりどころ・生きがい） ○必要とされること （家族から、地域から必要とされることが生きる力、活力へなる）
専門職 医療・介護	○医療機関システムが地域現状にそぐわない現実（総合診断医の必要性） ○医療介護体制（行政サイド）と地域・個々の現状の違い ○予防視点と病後視点（両方からの医療と介護） ○廃用症候群に陥らせない ○総合医、専門医、リハビリ、介護

グループＥ　家庭・近隣【独り暮らし・近所の支え合い・地縁団体】

行政が 行うべきこと	○地域コミュニティの個人情報管理に係る制度設計 ○オリジナルハザード MAP の作成（非常食の包装に使用など、発信方法検討） ○防災（特に自助）意識の強化に向けた仕掛けづくり （防災に関心を持ってもらうため、市民を巻き込みやすい機運の醸成） 例：カンパンを流行らせる・・・「Ms.カンパン」、「カンパンレシピ」 ★「見える化」「見せる化」 ＊情報発信や拡散の方法を工夫する ＊地域コミュニティ内の「見える化」を進める制度づくり
市民・地域が できること	○近隣の家族構成や人数がわかる一覧表を作成 ○町内会に参加（近所付き合い） ○学生が地域に飛び出す（地域は受け入れる体制づくり） ★活躍の「見える化」
協働で できること	○避難所の確認（ひとにやさしい避難所） ○助けてステッカー・大きなお世話ステッカーの作成 （状況と情報を結びつけるための働きかけ） ★状況の「見える化」（選択同意）

グループＦ　学区・生活圏域【地域拠点・地域活動・専門家活動】

児　童　福　祉	○働くママを手助けするボランティア ○元気なおじいちゃん、おばあちゃんが子（孫）を保育 ○地域のコミュニティが弱くなっており、昔は周囲の者が支えたことも、現在では周りが皆ライバルに見えてしまい、本音でコミュニケーションが取れないのではないか ○余裕がなければ子供にも人にも優しくできない。母親世代を支援することで、社会に参加できる女性が増加し、様々な面での人手不足の解消にもつながるのではないか
高 齢 者 福 祉	○近所の高齢者に関心を持つ ○地域での見守り体制の構築 ○気軽に集まれる場所（おたっしゃサロン） ○脳トレや筋トレのできる集まれる場所

	○回覧板を増やす ○人口減少に伴い、高齢者の面倒を見る者が不足している。高齢者が要介護などにならないよう、予防策を検討する必要がある ○子供１１０番のように、高齢者に優しい家というようなマークやシールを作成し、掲出してはどうか ○防災無線を、生活に身近な情報発信ツールとして高齢者のために利用できないか ○高齢者を孤立させないことが重要。スマホなど、若者にとっては当たり前に受け入れられることでも高齢者は適応できずに社会から取り残されていくため、IT 相談窓口を設置し、IT デビューさせることで社会とつながりを持てるのではないか
障害者福祉	○相談員を増やして話を聞く ○障害者と一緒にイベントを開催
スポーツ文化	○写真教室・写真文化（フォトコミュニケーション） ○有名ではないスポーツの紹介・振興 ○元気な「年寄り」を増やす ○スポーツと文化を一体的に捉え、スポーツを銚子の一本の柱として据えるべき。スポーツと観光、農業などと様々な分野と絡め、市の活性化につなげられるのではないか
その他意見等	○Ｆ班のテーマは市民にとって意見出しが難しい分野 （具体的に検討すべき事項の洗い出しに時間を費やしたため、振分け作業まで行えず、上記項目を設定し意見をまとめた） ○福祉関係の総合窓口が必要ではないか ○昔から福祉関係は行政がやるべきこととの考え方が強い ○題材があまりにも大枠なため、意見を出すことが難しい。また、他のグループと内容が被ってしまっている

グループG　産業・自然　【経済活動・環境活動】

行政が 行うべきこと	○異業種間交流の情報一元化（ビジネスマッチング） ○外国人の雇用についてサポートする場 ○航空会社の機内誌に取り上げてもらう ○市内の求人を出すサイト ○成田・羽田からの銚子行バス ○銚子観光ツアーガイドの外国人対応（英語・中国語・韓国語など） ○ヒトとカネが集まるための情報の一極集中化が必要 （お金を稼ぐ（働く）ための情報が全くない）
市民・地域が できること	○幼少期から銚子のことを好きになるような活動 ○沢山のフォトスポットで集客（インスタ映えする景色やモノが人を集める） ○環境活動で自然がきれいになれば人が集まる ○観光情報の一本化

	○市内で体験できるアクティビティの発信（クルージング・サップヨガなど） ○西部地区の良さをアピール ○市内にある４つの駅をうまく活用する ○企業間のマッチング ○後継者を求めている企業、農家、漁業者の情報を全国へ発信 ○農業経営の可視化（後継者を募集するため） ○定年後の受け皿
協働で できること	○Ｆｒｅｅ－ＷｉＦｉの設置 ○新婚旅行として銚子（日本）へ来てもらう ○空家を外国人や市外からの移住者へ利用してもらう
その他意見等	○テーマが広すぎて意見がまとまらないのでは ○広く浅くなってしまい、最終的な結論にたどり着かない ○もっとテーマを絞れば、その分野を得意とする人が集まるのでは ○金融機関・商工会議所・市役所（三者）の情報交換の場が少ない ○お金は無いが、○○ならあるといったネタがあると良い

グループＨ　広域連携　【近隣自治体・県・国との関係】

行政が 行うべきこと	○直線的な道路網 ○佐原～銚子間に高速道路 ○国家戦略特区の活用 ○銚子と県、銚子と国だけで話し合いを進めてしまうと、物流が軸となった直線的な道路の整備となってしまうが、近隣市町村も含めて協議することで、市と市をつなぐ道路網の整備が可能となり、交流人口の増加が見込まれる
市民・地域が できること	○観光（成田空港より東の地域の連携） ○ヒトとモノをつなぐ道路 ○交流人口 ○留学生との交流 ○市内に在住する外国人（千葉科学大の留学生等）に自国等に向けた銚子のＰＲをしてもらった方が、著名人のふるさと大使よりも世界に向けての発信が有効なのではないか ○震災対策として利根川の水運を復活させ物資の輸送を行う ○支援を受ける場合、支援する側にも利点がなければならない （国や県の問題解決に銚子市が協力するなど）
協働で できること	○成田（空港）から観光に来てもらう ○市内に住む外国人の方と交流できるイベント ○国際交流（相互理解、言葉の理解） ○営利をつなぐ非営利 ○銚子のまつりに外国人の文化（おどり等）を組み込んで開催してみてはどうか（参考は成田） ○成田空港までの交通手段が現在は「電車」しかなく、不便

	成田空港を拠点とすることで、そこから観光客の回流が見込まれる 2020 年東京オリンピック・パラリンピック等で、外国人も多く成田空港に降り立つので、銚子・成田空港直通のバスを走らせるべき
その他意見等	○銚子の人も「国際人」を目指すべき ○国際交流協会の設置（早急に） ○バス会社は、儲かる見込みのある路線しかバスを走らせない。人口が減少して、銚子市内でも公共交通の利用が少ないので成田空港直通バスは難しいのではないか ○道路網ではないが、歴史を紐解くと銚子が栄えていた頃は「利根川」を活用した物流が主流であった。現在は、全く活用していないが「利根川」の活用を見直すことで銚子を栄えていた時代に甦らせることが出来るのではないか 例：水陸両用バスを走らせて観光客を集客する。災害時に陸地ではなく、「利根川」を活用した物資の搬送をする。東京で災害があった際、銚子に備蓄庫を作っておき、そこから「利根川」を使って緊急物資の搬送をするなど

第２回市民ワークショップ講評

越川市長講評

皆さん段々エンジンがかかってきて、もう少し時間が欲しいといったのが本音かと思う。

まわりの皆さんの意見を否定せずに、自分の考えを出してみましょうというのが本日の進め方であり、私自身や市職員も思いつかないような、皆さんならではの意見が出たことと思う。

関谷先生より「誰が何をすべきなのか、誰が何をできるのか」を考えながら議論を進めて欲しいとお話があった。アイディアを沢山出していただき、これから深掘りをしていくという作業で、次のステージに向かうのかなと思う。

全体的に感じたことは、気持ちに余裕がないと、まちづくりに関わることが難しいとの意見がいくつかあったと思う。やはり自分に余裕がないと考えることができないし、自身の日常生活で精一杯になってしまう。まさに“てんでんしのぎ”状態である。

この総合計画策定というのは、どうやって余裕を作り出すのか、どうやって少しだけ自分以外の時間を作り出すのかがポイントになっていくと思う。

市民の皆さんが１％ずつ誰かのためにという時間を作れば膨大な時間となり、大きな力になると思う。

各団体の皆さまの努力で、市内のいろいろな所で「みえる化」が始まっている。

この「みえる化」をどんどん情報発信し、共有をしていく場がこの「市民ワークショップ」の場であると思う。

今後、更に深掘りをし、進化をさせていくために、皆さまのご協力をお願いしたい。

千葉大学　関谷教授講評

皆さんの生活感覚の中から、問題点や課題が生み出されていくと同時に皆さんが、何をしなくてはいけないのかを一般論ではなく、感覚を通じて色々なアイディアを出されていた。これはとても良い事であり、大事なことである。

まちづくりは、決して一般論では進まず、地域に住んでいる方々がどんな問題意識を持って、それを解決するために自分たちはどんな事ができるのか、その知恵を出し合うことがすごく大事である。本日はテーマごとの話し合いが行われたが、今後に向けて良いすべり出しができたと実感する。

まちづくりのポイントの一つとして、当事者目線になること。例えば子供たちの事を考えるとしても大人が考える子供たちではなく、子供たち自身に即して子供たちが何を考えているのか、何を望んでいるのか、どのような可能性を膨らませたいと考えるのかを当事者の目線に立って何ができるのかを考えていくことがとても大事。

そういった意味でも本日は、当事者目線に立った意見が色々なかたちで聞くことができたと思う。

もう一つは、地域の資源や魅力を発信していくとあったが内側目線ではダメである。つまり銚子の魅力は銚子以外、外側の方々からどう見られるかがすごく大事。

皆さんが、銚子にある資源をどう見せていくか、「インスタ映え」という意見も出されていたが、見せ方を常に考えながら地域の資源に光を当てて情報の広がりを作っていくことが効果的である。

本日は、そういった意味で現場感覚の意見を出していただいた事はとても大事で、これから出していただいた意見を深掘りしていけるかどうかが議論を続けていくうえでのポイントになってくると思う。

市民参加型で色々な計画やプロジェクトを進めていくなど、各自治体で行われているが、少し足りないと思う点は、「深掘り」の部分。これをどれだけできるかが、まちづくりの可能性を引き出していくことに繋がると思う。

今後、ワークショップは続いていくが、是非出された意見を踏まえながら深掘りして欲しい。

事務局とも相談しているところだが、本日出された意見をネット上に載せて、市民の方が見られるようにしていけると良いと思う。ワークショップに参加したくても参加できない方にも同じように情報を共有する。または、「私はこのように思う」と言った意見をネット上にどんどん出してもらい、意見や考えを被せていく。

意見を発信、共有していくことが「深掘り」のポイントとなる。

それぞれのテーマごとに関係する方が市内にはいると思う。その方にヒアリングをしたり、教えてもらったり、そういった動きが今後、あってもいいのかなと思う。

それぞれ活動されている方は、問題点もあるだろうし、良いアイディアも持っていると思う。

このような方を今後どのように巻き込んでいけるかが「深掘り」の意味ではすごく大事。

もっと「こんな情報があったらいいな」という部分もあったかもしれない、足りない部分も情報共有し、ネットに掲載しても良い。

市民が何かをやろうといった場合、それを実施するためには、色々な人の力が必要となる。

どういう人たちに、どういう風に働きかけていけば、輪が広がっていくのか。そういった知恵が必要。

色々な事をする場合、お金が必要になる。税金でやれる事には限界がある。そのお金をどのようにして調達するのか。ここでも知恵が必要となる。

寄附やクラウドファンディングなどの動きの広がりや、民間企業、個人投資などの動きもどんどん広がっている。つまり、お金をどのようにして引っ張り込んでくるか、どう循環させるかの知恵が膨らんでいくと実現の可能性がどんどん高まっていく。

どうやったら人を巻き込んでいけるのか、どうやったらお金を集めていけるのかといったアイディア出しを深めて欲しい。

最後にひとつ、まちづくりの可能性を開くということは、異質なモノの掛け合わせとよく言われている。分野、異世代、市内と市外といった異質なモノの掛け合わせが、様々なかたちを作っていき、可能性や実行性を高めていく。

答えは初めから決まっている訳ではなく、議論を進めながら広げていくことで、まちづくりの力が広まっていく。

次回も、議論の継続になると思うが、銚子の中でこんな動きがある、こんなことが出来るといった情報をどんどん持ち寄ってもらいたい、アイディアを募ることで後に繋がり、広がっていく。持ち寄りの部分を念頭においていただき、次回に臨んでいただきたい。